

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

### 事業名 **ビエンナーレ等イベント開催事業費**

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

情報科学芸術大学院大学 事務局教務課 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

**1 事業費** **5,085 千円** (前年度予算額： **0 千円)**

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,085	0	0	0	0	0	2,085	0	3,000
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

本学が取り組むメディアアートを中心とした様々なアートの展示や、各種パフォーマンスを実施するアートイベントをビエンナーレ形式(2年に1回)で開催している。

最新のアートに触れる機会を提供する恒例イベントとして、県民、大垣市民に定着している。

### (2) 事業内容

本学のアート領域を象徴したイベント「岐阜おおがきビエンナーレ」とものづくりを象徴した「Make」イベントは、本学の持つ多様性を示すイベントであり、この2大イベントを隔年で相互に開催することで、メディア文化と産業分野で最先端を走るIAMASを県内外へ強くPRする。

特に、IAMASのイノベーションを支えるアートの側面を内外にPRすることで、新産業の育成につなげていくことが必要である。

開催時期は12月頃の4日間程度を予定している。

(3) 県負担・補助率の考え方

民間助成の活用を予定  
大垣市から一部助成あり

(4) 類似事業の有無

岐阜おおがきビエンナーレと、Ogaki Mini Maker Faireを毎年交互に開催している。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	2,000	アーティスト謝礼、スタッフ謝礼
需用費	40	消耗品費
役員費	147	来場者保険、郵送料
委託料	2,300	イベント運営、施設設営委託
その他	598	会場使用料等（ソフトピアジャパンセンタービル内想定）
合計	5,085	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

—

(2) 国・他県の状況

—

(3) 後年度の財政負担

隔年開催であるアートイベント「岐阜おおがきビエンナーレ」と、ものづくりイベント「Maker Faire」を毎年交互に開催していく。

(4) 事業主体及びその妥当性

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

アートイベント「岐阜おおがきビエンナーレ」の開催により、IAMASの研究や教育成果など先進的なアートへの取り組みを広くPRする。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H27)	H29年度 実績	R1年度 実績	R3年度 実績	R5年度 目標	終期目標	
						達成率	
① 来場者数 (人)	1000	1300	3200	100	1000	1000	10%
				オンライン (コア)			

○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和1年度	<p>・取組内容と成果 ソフトピアジャパンセンタービルを会場に「メディア技術がもたらす公共圏」をテーマに新進気鋭の若手アーティストや本学教員等による作品展示やシンポジウムを開催した。 併せて岐阜クリエイション工房事業の作品展示及び講評・トークイベントを併催した。</p>
令和3年度	<p>新型コロナウイルス感染症のため、オンライン開催のみに縮小開催した。 「LIFE---E 部分的に生きているもの、エクストリーム・バイオロジー、エイリアン生命」をテーマに、アート・哲学、化学、生物学、宇宙生物学からのアプローチを結集し、オンラインシンポジウムを開催した。</p> <p>指標① 目標：__1,000__ 実績：__100__ 達成率：__10__ %</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__ %</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない	
(評価) 3	大学院博士後期課程を開設し、より I AMAS について PR していくことが必要となっている。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	I AMAS が実施するアートイベントとしては、集客力を誇るイベントであり、本学の取り組みや岐阜県・大垣市の芸術等を広く県内外に PR している。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている	
(評価) 2	新型コロナウイルスの状況に応じて柔軟にオンラインでの開催を図るなど、対応してきた。

### (今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 愛知トリエンナーレなどと比較すると、規模や内容等で大きな差があることから、イベント規模に見合う予算確保が必要。
--

### (次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ものづくりイベントである「Ogaki Mini Maker Faire」とアートイベントである「ビエンナーレ」を隔年で開催することで、本学の魅力を広く PR していく。
--

### (他事業と組み合わせる場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	なし
組み合わせる理由 や期待する効果 など	なし